

# Hello! FUJISEI

No.21

## 短期化する入院日数

# 日数が短くなっても 費用の備えは必要！

厚生労働省が3年ごとにまとめている「平成20年患者調査」によると、平成20年9月中に退院した推計患者を在院日数の平均である平均在院日数を施設の種別別にみると、「病院」37.4日、「一般診療所」18.5日となっており、前回調査の平成17年に比べ「病院」1.8日、「一般診療所」3.1日短くなっています。

これを年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにしたがって平均在院日数は長くなっていますが、年次推移でみると、いずれの年齢階級にお

いても全体的に短くなる傾向にあることがわかります。

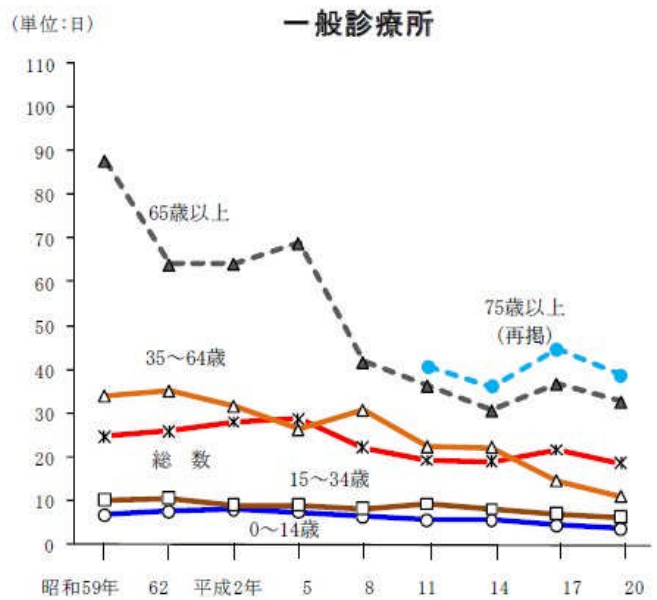
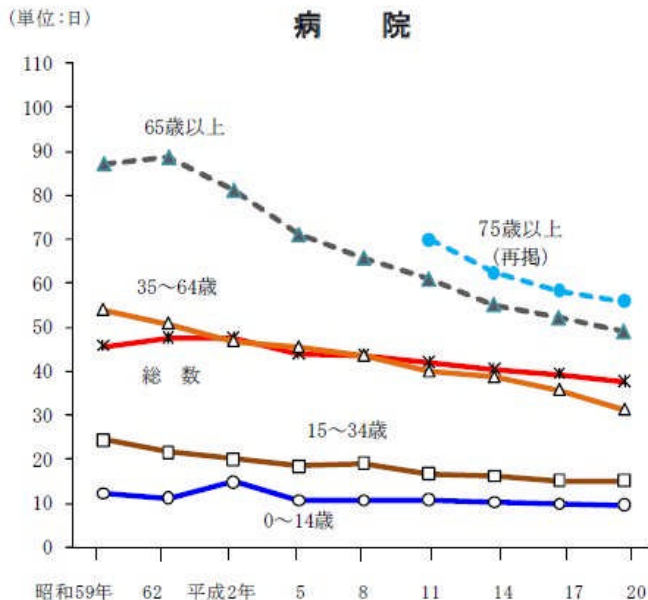
この入院日数の短期化の背景には、医療制度改革を進めていくうえでの国の方針があります。

目前に迫った超高齢社会において、安心して生活していくためには、良質で効率的な医療の確保が不可欠とされています。高齢化の進展とともに、経済の基調が大きく変化しているなか、医療制度改革を進めるに当たって、平均在院日数の短縮といった医療費の伸びの構造的な要因に着目し、具体的な目標を定め医療

を効率化し、医療費の伸びを抑制しようとした。その結果、平均在院日数の短縮が入院医療費を適正化するための中長期的方策として位置づけられました。

短い在院日数は、1件当たりの費用を減少させますが、サービスがより集中しがちで1日当たりの費用がより高くなりがちという指摘もあります。さらに、もし在院日数の減少が再入院率を上げることにつながれば、疾病の1件当たりの費用はあまり下がらず、むしろ上がるかもしれないという声もあります。

年齢階級別にみた退院患者の平均在院日数の年次推移 (厚生労働省「平成20年 患者調査」より)



注：1) 各年9月1日～30日に退院した者を対象としたものである。  
 2) 平成8年以前は、「75歳以上」を表章していない。  
 3) 診療所の調査の期日については、平成17年から休診の多い木曜日を除外した。